

文化財の英語解説のあり方について（概要）

～訪日外国人旅行者に文化財の魅力を伝えるための視点～

訪日外国人旅行者が文化財の魅力を十分に感じ、楽しめるような環境整備に向け、文化財の英語解説に当たり必要な視点を整理するとともに、具体的な取組事例を集録した。

<英語解説の改善・充実のあたっての視点>

視点1 日本語の解説を直訳せず、基本的な用語の解説を補足する等、文化財を理解する上で前提となる情報を解説に盛り込む。

✓ 訪日外国人旅行者にとって十分に理解できる内容となっているか

文化財の解説には日本人であれば大半の人が当然に理解できる固有名詞が数多く登場。日本語を英文に直訳せず外国人観光客に理解が難しそうな単語がないか確認し、適切な英語に置き換えたり（例えば「暖簾」→「Traditional shop curtain」）、文章を足す・注釈を加える、などが必要。

✓ 情報が多すぎたり少なすぎたり、専門的すぎたりしないか

日本語の解説をそのまま英訳するのではなく、より概括的な解説に置き換えるなどの工夫をする。

✓ 文化財の価値や背景等を理解の上、何を解説するかを明確に整理できているか

解説の作成者自身が文化財の価値や背景を理解し「何が見所か（何を覚えてもらいたくて展示しているのか）」をよく吟味する。

◇英文作成作業の進め方のアイデア◇

作業の進め方に関する具体的なアイデアを紹介。できる限り日本語から翻訳せず英語で文章を作る、どうしても日本語を翻訳する場合は翻訳者に編集の権限を多く与える、等。

視点2 外国人の目線でその文化財のどこに興味・関心を持つかを把握し、メリハリの利いた解説内容とする。

✓ ターゲットとする外国人がその文化財のどこに興味・関心を持つかを把握の上、メリハリの利いた解説項目・内容としているか

文化財の鑑賞時の関心を持つところが日本人と外国人で異なるため、モニターツアー・アンケートなどで外国人目線から何が知りたいか等を把握する。

視点3 案内板やパンフレットなどの解説媒体に応じ適切に情報を書き分けるとともに、デザイン上の見やすさや景観との兼ね合いも考慮する。

✓ 案内板とパンフレットでは用途・情報量が異なる。解説媒体による用途等の違いを捉えているか

「展示は2カ国語、音声ガイドは5カ国語」のように多言語対応を媒体で分担することも有効。

✓ デザイン上の工夫、統一は図られているか

案内板・パンフレットなどの媒体のデザインや表記の統一を図る（トータルデザインを整える）。

視点4 分かりやすい解説のためには、英文執筆・翻訳を委ねることができる優れた人材の確保が重要。

✓ 解説の作成に当たり、ノウハウ・知見を有する人材が確保できるか

地域で活躍する外国人の方や海外で日本の歴史や文化を研究している方などと連携。現場の状況や外国人のニーズを良く把握している通訳案内士等の活用も一案。

<英語解説の改善・充実のための取組の推進体制>

◎観光部局と文化財保護部局が連携すること

◎国及び地方公共団体等が文化財の所有者を適切に支援すること